



報道機関各位

熊本大学

熊本大学 国際シンポジウム
「高齢者のライフスタイルと脳のはたらき」

このたび、熊本大学国際共同研究拠点および熊本大学拠点形成研究の活動の一環として、上記の国際シンポジウムを開催する運びとなりました。本シンポジウムでは、アメリカ、ノルウェー、日本の第一線の研究者をお招きして、加齢が脳に与える影響、ライフスタイルによる高齢者の脳機能の維持などについて、最先端の研究成果をご紹介いただき、超高齢社会を生き抜く知恵についてのヒントを探ります。

高齢化が叫ばれるこのごろですが、日本の高齢化はこの30年間に急速に進み、10年ほど前に世界トップの高齢化率となつてから、日本は不動の地位を保っています。そうした状況で、高齢期を迎える前にどんな準備をすべきか、高齢期にどのようなライフスタイルをとるべきか、最新の科学データをもとに、会場の皆様と一緒に考えたいと思います。

講演者はいずれも、高齢者の脳に関する生のデータを直接みている「証人」です。少し専門的な内容も含まれますが、切羽の研究現場からの報告を聞くことができ、こうした生のデータに接するまたとない機会となるでしょう。

本シンポジウムは、研究者のみならず、広く一般の方にもご参加いただきたく、事前の広報および当日の取材を、よろしくお願ひいたします。

記

【日時】平成26年10月19日（日）13:00～17:10

【場所】熊本大学工学部 百周年記念館
(熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

【対象】研究者、学生、一般

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

http://www.kumamoto-u.ac.jp/kenkyuu/news/26jinbunkiyoten_sekiyama

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院先端機構

人文社会科学系担当

担当：佐藤 TEL：096-342-2480

熊本大学拠点形成研究「心の可塑性研究ユニット」
熊本大学大学院先導機構人文社会科学系国際共同研究拠点

国際シンポジウム

高齢者の ライフスタイルと 脳のはたらき

入場無料

月浦 崇 准教授 (京都大学大学院人間・環境学研究科)

「記憶に伴う脳活動の加齢変化、そして高齢者のライフスタイルが記憶機能に及ぼす影響」

Michael D. Rugg 教授 (University of Texas at Dallas, USA)

「成人生涯発達におけるエピソード記憶の個人差：脳機能画像化研究からの証拠」

積山 薫 教授 (熊本大学文学部)

「視覚-運動経験による認知機能の発達、適応、維持」

Kristine B. Walhovd 教授 (University of Oslo, Norway)

「脳と認知の生涯発達に関するMRI研究：変化の原理、そして変化に影響を与えることはできるか？」

* 講演は英語ですが、英語と日本語のスライドを並べて表示いたします。

日時：2014年 **10月19日** (日) **13:00~17:10**

場所：熊本大学工学部百周年記念館 (黒髪南地区)

問合せ：熊本大学大学院先導機構 国際共同研究拠点 人文社会科学系担当 佐藤
c-sato@jimu.kumamoto-u.ac.jp 096-342-2480